

<b>ピロキロン粉粒剤</b> <b>コラトップジャンボ P</b>	<b>取扱メーカー：</b> クミカ、シンジェンタ  <b>原体メーカー：</b> シンジェンタ
<b>成分：</b> ピロキロン……………24.0%	<b>性状：</b> 褐色細粒及び微粒 水溶性パック入り，1パック50g  <b>毒性：</b> 普通物 <b>消防法：</b> ——

### 【品目特性】 ……………

- 圃場内へ投げ込むだけのジャンボ剤で散布器具は必要なく，田んぼに入らず簡単に散布できる。
- 水溶性パックを圃場内に投入・着水後速やかにパックが溶け，中の粒が圃場全面に拡散する。
- コラトップ粒剤5の項参照。
- 有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

### 【使用上のポイント】 ……………

- 湛水状態の水田に，畦畔から小包装（パック）のまま投げ入れる。散布器具は不要。
- 田面が露出していると効果ムラを生じるので，散布時の湛水深は3cm以上が望ましい。
- 葉いもち防除には，初発の10～20日前に散布するのが効果的である。
- 小包装（パック）に使用しているフィルムは水溶性のため，濡れた手で作業したり，降雨などで破袋しないよう注意する。

### 【薬効・薬害等の注意】 ……………

- 湛水状態（湛水深3cm以上）で，畦畔からパックのまま投げ入れる。投入後は少なくとも3～4日間はそのまま湛水状態を保ち，田面を露出させたり水を切らしたりしないように注意する。また落水，かけ流しはしない。
- 漏水田では使用しない。
- 藻やウキクサが多発している水田では，拡散が不十分となり，効果が劣る可能性があるので使用しない。

### 【安全対策上の注意】 ……………

- 水溶性フィルムで小包装化されているので濡れた手で触らない。
- 水溶性フィルムが破袋した場合は，誤食したり眼に入らぬよう注意する。
- 甲殻類に影響を及ぼすので，使用時は注意。
- 空容器，空袋等は適切に処理する。

### 【適用と使用法】 ……………

作物名	適用病害名	10 a 当り 使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	ピロキロンを含む 農薬の総使用回数
稲	いもち病	小包装 (パック) 10～13個 (500～650g)	葉いもちに対しては 初発20日前～初発時 穂いもちに対しては 出穂30日前～5日前 まで	2回以内	水田に小包装（パック）のまま投げ入れる。	3回以内 (直播では種時又は移植時 までの処理は 1回以内，本田 では2回以内)